

「近隣の自然の変化に目を向ける No. 9

これぞ5月の花々 Here are May flowers」

2020年5月14日

5月と言えば思い浮かべる花は？と聞かれたら、何を挙げますか？前号では木々に目をむけましたので、今回は5月を代表する花々に目を向けることにします。

先ず、カキツバタ、アヤメ、アイリスというファミリー。菖蒲も入れるべきかと思いますが、6月の花として登場予定です。尾形光琳のカキツバタの屏風絵が思い浮かびます。青空に映える青紫の花と地面からすらと伸びた葉との組み合わせが独特の美を生みだしています。

次ぎにあげたのがスズラン（鈴蘭）。ドイツ名が5月の小さな鈴。可憐な少女をイメージさせます。しかし（だから？）、高貴なラン（蘭）科ではない？（これはランボウな意見／偏見）。そして、満開のシャクヤク。ポタンとならぶ優雅な花です。

今では街路樹としてお馴染みのハナミズキ。白と赤の2種見かけますが、濃さの違う赤色の花があるので注目ください。そして、ハナミズキが終えた頃、遅く来て、ヤマボウシが咲く。花卉の形が尖っていて印象が違うが、実は兄弟（ミズキ科）。秋になる実のかたちも全く違う。ヤマボウシは木イチゴのような球形で、ハナミズキの実は青木の実に似ている。なお、ミズキは花が素朴で別種のようなです。なお、ハナミズキはアメリカ産でワシントン州の州花。40数年前にシアトルで初めて見た時の記憶がよみがえる。

最後に5月の花としてフジ（藤）とベツレヘムの星も加えました。

http://sengawacx.com/LookNatureN09_2020.jpg

「近隣の自然の変化に目を向ける No. 10

バラ・薔薇の魅力はどこに Attractive points of roses」

2020年5月24日

バラの魅力を語るのはおこがましく、何も書けずに困っている。でも、何でなんだろう？と自問した。私は、花の中で薔薇は別世界の存在と長い間思っていた。そのため本気でカメラを向けて来なかった。宮殿の庭に植えられ、毎日おかかえ植木職人によって大事に手入れされ、貴婦人たちが優雅に愛でている情景にまったく心惹かれなかったからか？世界中のバラ愛好家が人生をかけて品種改良を重ね、コンテストで栄誉を受け、特別な名が与えられたエリート花だからか？美しいものを美しいと言えないひねくれた感性を認めたくないからか？とにかく、私にとってバラは花でありながら花として存在しなかった。

とは言え、春の神代植物園のバラ園を同窓生と巡り、埼玉で最大の伊奈バラ園を友人と訪れたことがある。そこで、西欧の宮廷史を飾った女性の名が付けられたバラのオンパレードに、また、大小様々なかたちと色、美しさの多様な姿に見入ってしまった。

そして今、近隣を歩いていると、玄関先に手入れされたいろいろなバラが植えられている。そこで改めてバラに魅力を感じ、カメラを向けて来た。その中で、コロナ禍の最中に咲いていたバラをアルバムに収めた。

http://sengawacx.com/LookNatureN010_2020.jpg

「近隣の自然の変化に目を向ける No.11

清廉で無限を想わせる白 White possibilities」

2020年5月28日

白は無色か？科学的にはすべての色の光が合わさると白色となる。しかし、すべての色の絵の具を合わせると黒色になる。では青空に浮かぶ雲が白く見えるのはなぜか？（雨雲が暗黒に見えるワケと共に考えてみてください）。

ここは白い花を紹介するアルバム：自然界で白い木の花を見た時、どんな印象を受けますか？**白雲木**は、白い雲を思い浮かべて命名されたに違いない。真白なハンカチを思い浮かべ、そのまま命名されたのが**ハンカチの木**。今年、世界中の人に尋ねたら、**マスクの木**と答えるかも知れません。

空の木=**ウツギ**の空は、5月晴れの空ではなく、茎が中空になっているからというから空しい。でも日本原産で驚くほどの美しさで、多種多様の**ウツギ**が知られている。別名が**卯の花**。万葉集にも多く詠われている(ネット情報)。例えば「卯の花の咲く月立ちぬ 霍公鳥(ホトトギス) 来鳴き響(とよめよ 含みたりとも)。あれ、どこかで聞いたような？！

次は、白雲木によく似ている**エゴノキ**。よく見る純白と薄赤く化粧した種類も見た。**コデマリ**は名まえの通りの可愛らしい花。玉簾(すだれ) 状に咲いた姿も美しい。**ハゴロモジャスミン**は道沿いの垣根を覆うように咲き、強烈な香りを放っているのですぐに気づく。**ハリエンジュ**は、高木でたくさんの白い花の塊が枝を華やかに飾る。蝉はなぜかこの木を好んで羽化する。空ゼミが列を組んでいる姿が、芦花公園の夏の風物となっている。

http://sengawacx.com/LookNatureN011_2020.jpg

「近隣の自然の変化に目を向ける No.12

野生ラン(蘭)を探し求めて Wild orchids」

2020年6月3日

6月に入った。暦では春から夏に移り変わり、梅雨入りが近いようだ。しかし、今年はコロナ禍で季節感が薄れているのではないかと。しかし、周囲の花々を見てみると、季節の変化は明らかだ。ホタルブクロはその典型。ゲンジボタルが光を放って飛び交うのは入梅の頃からで、昔は子どもが捕まえたホタルを筒形の花の中に入れてほのかに光るのを楽しんだと言う。

でも、今年はホタル狩に行けるだろうか？先日そんな会話をした。可能性は、自粛／自由半々か？

今回は、春先から探し求めた野生ランとの出会いについて記す。シュンラン（春蘭）、金蘭、銀蘭は例年よりも見事な花を付けていた。心躍る再会であった。紫蘭は、ランには珍しく園芸種として長い間たくさんの花を見ることが出来る。一方、白紫蘭とはなかなか出会う機会に恵まれなかった。エビネランは、かつては本橋野草苑で多様な花を見せていただいたが、今年は芦花公園の一角で見た3種だけであった。そのエビネの側に君子蘭が華やかに咲いていたが、実はラン科ではなくヒガンバナ科。ランになりたい思いが募り、ラン宮殿の君子と呼ばれるほどの美と鮮やかな色の花を付けるまでに出世した、という物語があるとかないか・・・ランらんラン、と想像が膨らむのもランの魅力と言えるかも知れない。

以上、今春のランとの私的出会いという視点で8種のランを紹介したが、過去に出会った野生ランについて付記する。世界中には多くの熱烈な蘭愛好家がおられ、毎年大規模な蘭展が開かれている。しかし私は、そこで展示される派手で高貴なランよりもむしろ野生ラン（高山植物や野草）に強く惹かれる。例えば、レブンアツモリ、クマガイソウはその中の別格だが、ネジバナ、マヤラン、サギソウ、ハクサンチドリなど、何度見ても大興奮する。

http://sengawacx.com/LookNatureN012_2020.jpg

<http://sengawacx.com/OtherWildOrchids.jpg>

[コロナ情報：緊急事態宣言解除後の生活]

参考：緊急宣言後の生活 062020C.pdf

<http://sengawacx.com/LifeAfterReleaseCOVID19Emergency.pdf>

「近隣の自然の変化に目を向ける No.13

アジサイ(紫陽花)祭り Hydrangea Festival」

2020年6月12日

6月に入り、周囲はアジサイ（紫陽花、八仙花、*Hydrangea macrophylla*）が花盛り。そこで今回は、満を持してアジサイにフォーカスする。

誰もが知っている「あじさい」とは、一体どんな意味があるのだろうか？調べてみた。「藍色が集まったもの」=あづさい（集真藍）。「あづ」は小さいものの集まり、「さい」は「さあい=真藍」とあった。紫陽花は当て字であった。なお、英語名の“hydro”=水、“angeion”=器である。そこで、梅雨にふさわしい花と考えるのは日本人で、シーボルトが紹介した欧州には雨期がないので早とちりしないように注意しよう。

アジサイの原種は日本産のガクアジサイと言う。ちょっとビックリ。ノリウツギのようなヤマアジサイが交配されて多種多様な園芸種のアジサイが生まれ、今も量産されている。最近のヒット品種が、シチダンカ(七段花)であるとNHKの番組で知った。私が初めて見たアジサイだったので納得。

今年見たいろいろな紫陽花（色違い、ガクアジサイ）を並べて見た。お好みのアジサイはどれですか？カップを伏せた花が重なり集まって咲いている様が見慣れたアジサイだが、最近是新種の新種が増えているようだ。芦花公園にも新種で愉快的な名のアジサイが通路沿いに植えられている。“春よ恋” “エンドレスサマー” “ありがとう” “富士の湧水” などなど。

http://sengawacx.com/LookNatureN013a_2020.jpg

http://sengawacx.com/LookNatureN013b_2020.jpg

「近隣の自然の変化に目を向ける No.14

6月の白い木の花 June white 」 2020年6月19日

5月(No.11)で特集した「清廉で無限を想わせる白 White possibility」では何色にも染まっていない清楚な花であったが、6月に出遭った白い木の花はどれも存在感があり、誇り高い花であった。

先ず第一は、**タイサンボク(泰山木)**。大きな木に肉厚の白花を力強く空に向かって広げて咲く。誰もが見上げてしまう。しかし、下には向かない。次は**クチナシ(山梔子)**。純白の花を美しく広げ、強い香りを放つので、思わず目を向けさせられる。八重種もある。

祇園精舎の鐘の音が響く寺院に咲くという**サラソウジュ(沙羅双樹、別名、夏椿)**。今では公園でも見られる。その小型版が**ヒメシャラ(姫沙羅)**。沙羅は復活・再生を意味する命の木の一つとされている。

カタルパは、芦花公園が誇る花の一つである。徳富蘆花が100数年前に入村した粕谷村に、熊本の徳富記念館から若木を移植されたもので、全国的にも珍しい木である。元々は、明治の始めに新島 襄がアメリカから持ち帰り、熊本の徳富蘇峰に贈った木(**アメリカキササゲ**)から株分けされたもので、カタルパは英語名。かなりの高木になり、見事な花と細長いササゲ(大角豆)をつける。因みに、中国原産のキササゲ(木大角豆、学名：Catalpa ovata)は、花がやや小型である点が異なる。なお2年前に、芦花公園内に**カタルパ保育園**が開設された。

赤い雄しべが特徴的な**フェイジョア**花はの純白でモコとしている(甘いので小鳥が摂食するとか)。その近くに**チンシバイ(珍至梅)**が大きな手を広げていた。よく見ると一つ一つの花が刺繍のように美しい。

吉野 輝雄

http://sengawacx.com/LookNatureN014_2020.jpg

「自然広場から 近隣の自然の変化に目を向ける No.15

6月も百花繚乱 Profusion of flowers in June 」2020年6月27日

4,5月につづき6月も自然はまさに百花繚乱。被写体探しに苦労しないように蜂たちも花の周りを飛び交っている。花のかたち、色彩、香りも多種多様だ。個々の花の由来や特徴を知るのは後回しにし、自然を飾る多様な姿に目を向けて楽しみたい。

今年、私が初めてみた花は、ペパーミントとミッキーマウスツリーとサボンソー。花もハッカの香りが強いのでマスクの内側に挟んで楽しんだ。黒い実がミッキーの耳？最近人気らしい。サボンソー＝シャボン草：花、葉、根など全体にサポニンを含み、昔、ヨーロッパでは洗たくに使われたと言う。アカンサスの長く伸びた花はいつ見ても不思議に思う。

ギリシアの国花で、古代ギリシアのコリント様式の建築に、アカンサスの葉が彫刻のモチーフとして使われた。上野の旧岩崎邸の内装にもアカンサスの葉が模様として使われているのを見たことがある。

http://sengawacx.com/LookNatureN015_2020.jpg

「自然広場から：近隣の自然の変化に目を向ける No.16 6月の二花展にて Two Flower Exhibition in June」

2020年7月2日

早7月、今日7/3は年間で一番日の入りが遅い日だ。すでに梅雨に入り、自然は大雨と強風が続いている。コロナ感染だけでなく熱中症にも気をつけなければならない。気温と気象情報（梅雨前線の位置）を調べてから一日を始めている。

さて、6月を代表する2つの花展を楽しんだ。一つは花菖蒲。明治神宮や都立水元公園が有名だが、近隣の農家の畑で見事に咲いていた。水辺でもないのに、と不思議に思ったので調べてみると、日当たりでも水やりをして乾燥させなければきれいな花をつけるとあった。アヤメも同じようだ。

ホタルブクロとの出遭いは初夏の楽しみだ。今年も散歩道沿いに咲いてくれた。だが、白花とは出遭えなかった。その代わりに、買い物に行く途中、藍色の大型の花が目に入った。驚喜して5枚パチリ。ゲンジボタルをフクロの中に入れてみたいものだ。

http://sengawacx.com/LookNatureN016_2020.jpg

今朝、芦花公園で四つ葉のクローバーを初めて見つけた。また、その近くにシンジュの木があり、昨夜の強風で花が地面に落ちていた、漢字名は？アコヤガイの中に真珠ができるように花の中に膨らみがあったので「真珠の木」と予想したが、実は「神樹」。出遭いは神の恵みと心から信じられた。

